

第9回

## 唐と東アジア

監修・講師  
 佐川英治

学習のねらい

隋の文帝（楊堅）は、589年に南朝を征服し、およそ300年ぶりに中国を統一する。続く煬帝の時代には、南北を結ぶ経済の大動脈として大運河が築かれた。しかし煬帝は3回の高句麗遠征に失敗し、反乱が起こって国内は大混乱に陥る。そこで李淵（高祖）は、長安に入って唐を建国した。次の太宗の時代に北アジアや内陸アジア、朝鮮にも支配を広げて、唐は大帝国へと発展する。この影響を受けて朝鮮、日本では、唐の律令制度や仏教文化を取り入れた国づくりが行われるようになる。

：	<隋の南北統一>	文帝（楊堅）	均田制	府兵制	科挙	煬帝	：
：		大運河	高句麗遠征				：
：	<唐の繁栄と国際都市長安>						：
：		李淵（高祖）	律令	租調庸	玄宗	安史の乱	：
：	<遣唐使の時代>	高句麗	百濟	新羅	白村江の戦い	冊封	：
：		朝貢	平城京	平安京			：

### 隋の南北統一

隋を建国した文帝（楊堅）は、589年に南朝を滅ぼし、中国を再統一した。文帝は北朝以来の均田制や府兵制を整備し、科挙を始めるなど、中央集権的な国づくりを行う一方で、仏教を厚く信仰し、全国に広めようとした。文帝の後をついだ煬帝は、さらに帝国を拡大しようと高句麗の征服を企画した。煬帝は、南朝の時代に発達した江南の経済力を利用しようと、南北を結ぶ大運河を建設した。倭国（日本）はこうした隋の動きに反応し、外交関係を結ぶため、607年小野妹子を遣隋使として派遣し、煬帝に「日いつるところの天子」で始まる国書を送った。煬帝は3度も大規模な高句麗遠征の軍を派遣したが、ついに成功しなかった。大運河の建設や高句麗遠征により疲弊した人々は各地で反乱を起こし、隋は建国から30年足らずで滅んだ。

## 唐の繁栄と国際都市長安

隋が混乱すると、**李淵**（高祖）は**長安**に進軍して皇帝に即位し、**唐**を建国した。唐は隋の**律令制度**を継承してさらに発展させ、均田制によって農民に土地を支給するかわりに**租、調、庸**と呼ばれる租税を徴収するしくみや、府兵制による兵役を担わせるしくみを整えた。唐は次の**太宗**の時代に、西域のオアシス都市を征服し、騎馬遊牧民国家の**東突厥**を降服させて、北方や西方の諸民族から、遊牧世界の統治者を示す「**天可汗**」の称号を贈られた。さらに唐は、新羅と協力して高句麗や百済を滅ぼした。都の長安は当時の世界で最大規模の都市となり、東は日本から西はアラブにいたるまで世界各国の使者が訪れた。また多数の仏教寺院のほかに、キリスト教やゾロアスター教の寺院も築かれた。

## 遣唐使の時代

唐が建国すると、倭国（日本）は唐にも**遣唐使**を派遣した。ただし、7世紀は唐が**高句麗**や**百済**を滅ぼし、倭国も663年の**白村江の戦い**で唐と**新羅**の連合軍に敗れるなど、動乱と緊張が続く時代であった。この時代の使節団の規模はまだ小さく、派遣も不定期で、外交交渉が主な目的であった。しかし7世紀の後半になると、東突厥が復活したり、チベットの吐蕃が強力になったりしたことで、唐も外交に力を注ぐようになる。このころ倭国も国号を「日本」に改め、およそ20年に1度の間隔で、大規模な使節団を派遣するようになり、本格的に唐の律令や文化を模倣した国づくりを進めるようになる。

### 考えてみよう 調べてみよう

- 7世紀の中国と朝鮮と日本の動きを年表にして比較し、相互にどのような関係があるか考えてみよう。
- 漢の最大領域と唐の最大領域を比較して、どのような共通点や違いがあるか調べてみよう。
- 東大寺の正倉院の宝物の中には、どのような舶来品があるか調べてみよう。